

「高尾森林ふれあい推進センター森林ふれあい推進事業：協定イベント」

土窯を再生しました！

-炭焼窯づくり体験イベント報告-

文・写真：NPO 法人日本エコクラブ
DAIGO エコロジー村
理事兼助役 川口 武文

「炭焼き」は古くて新しい森林再生を担う活動です。「炭焼き」は森林の新陳代謝を行いその環境を持続するとともに、人間は森林から大きな恵みを楽しんでいます。「炭焼き」は人間と森林の静かな対話です。今回のイベントは、そのような炭焼き活動の基本となる「炭焼窯（土窯）づくり」を行いました。

窯づくりの工程は結構複雑でまた時間が掛かるものです。今回は、6月中旬から7月下旬までの都合5回に分けてイベントを計画しました。途中で梅雨時の悪天候もあり、イベント中止も余儀なくされましたが、予定より1週間遅れの7月19日、窯は無事に再生されました。このイベントには、遠くは千葉県、また都心からも熱心な炭焼に興味を持つ方々が12名参加されました。最初は皆さん初顔合わせの少しぎこちなさもありましたが、段々仲間意識も出てきて、非常に良い雰囲気です。窯づくり作業を行うことができました。

窯づくりは大きく3つの工程に分けることができます。①窯底づくり、②窯壁づくり、③天井づくりの3つです。この中で一番大変な作業が③の天井づくりですが、これも①と②の作業がしっかりとできていないと、最悪「天井が崩れる」ということになります。イベントは、まず皆さんに炭焼窯の原理と窯づくりの流れを知ってもらうために「座学」から始めました。座学は高尾山日影沢のキャンプ場で実施し、実際の作業は高尾山山頂へ向かう「いろはの森コース」を少し登ったところにあります。このような高尾山の豊かな緑に囲まれた中で作業は森林浴も兼ねることになり、参加者一同「体も気持ちもリフレッシュできた！」と口をそろえていました。とはいえ、それでも作業は「粘土運び&コネ」「立ち木（窯の中に立て込む木）づくり」「粘土タタキ」など土窯づくりは相当な肉体労働も伴います。今回の参加者の半数は女性で、男性顔負けの“働きぶり”には講師陣もびっくり、目を見張りました。

いろいろな悲喜交々を経験しながら迎えた最後のイベント日は、講師陣もフルメンバーで臨み総勢17名が、生憎の雨天にも関わらず各自の熱気が土窯天井部へ注ぎ込まれました。いよいよ天井部仕上げ作業です。講師スタッフにとってもこの段階は、それぞれの思いが入り込む作業で、緊張感を持って指導に当たりました。まず炭材仕込み作業から始め、いよいよ天井仕上げの粘土打ち込み作業に入ります。約3トン余りの粘土運搬をリレーで行い、そのあと粘土タタキ込をおよそ3時間あまり休みなく実施、午後4時にまるで古墳のような天井部が仕上がりました。参加者全員、非常な肉体の疲れを上回る“達成感”を得たイベント最後にふさわしい作業となりました。みなさん、ご苦労様でした！



6月15日(第1回):講師の話を真剣に聞く様子



6月22日(第2回):窯底づくり作業の様子



7月5日(第3回):窯に立て込んだ立ち木の様子



7月12日（第4回）：天井部敷木作業の様子



7月19日（第5回）：完成した土窯の前で記念撮影